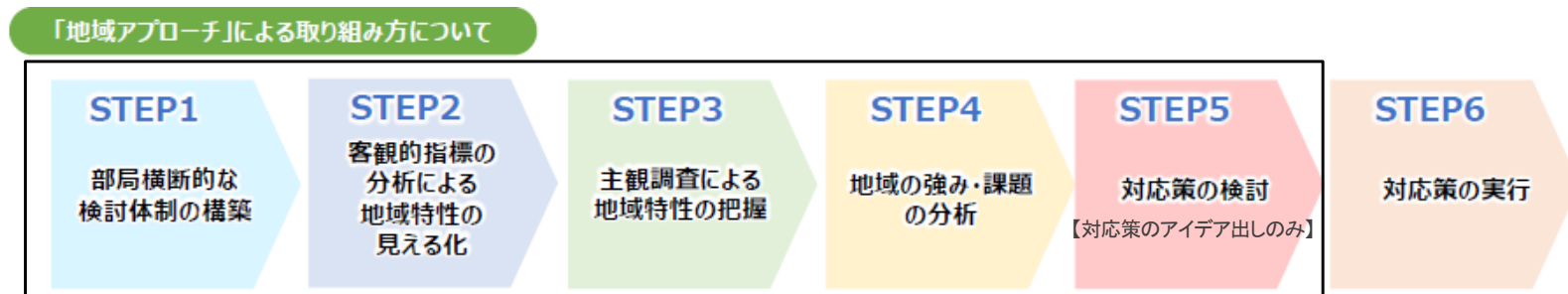


地域アプローチ・モニターの 取組成果について

令和6年(2024年)3月15日
東京都八王子市

取組みの目的

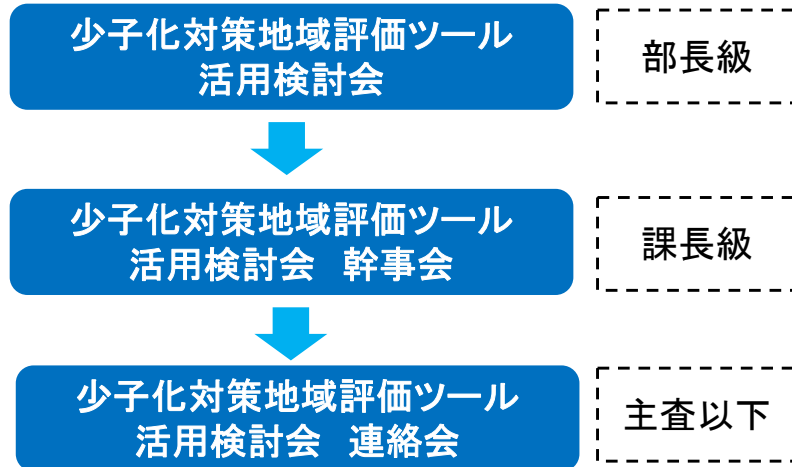
これまでも待機児童の解消や子育て支援の充実に取り組んできたところではあるが、出生数や合計特殊出生率の改善はみられなかった。こうしたことから、少子会対策地域評価ツールの活用による客観的指標の分析及び、地域特性の見える化などにより、少子化対策の対応方針を検討するため、地域アプローチに取り組んだ。



【八王子市が今回取り組んだ範囲】

検討体制

庁内の検討体制は部長級・課長級・主査以下の3層構造とし、事務局は子ども家庭部が担当。主査以下級の職員が参加した連絡会には14部室28所管から29名が参加。



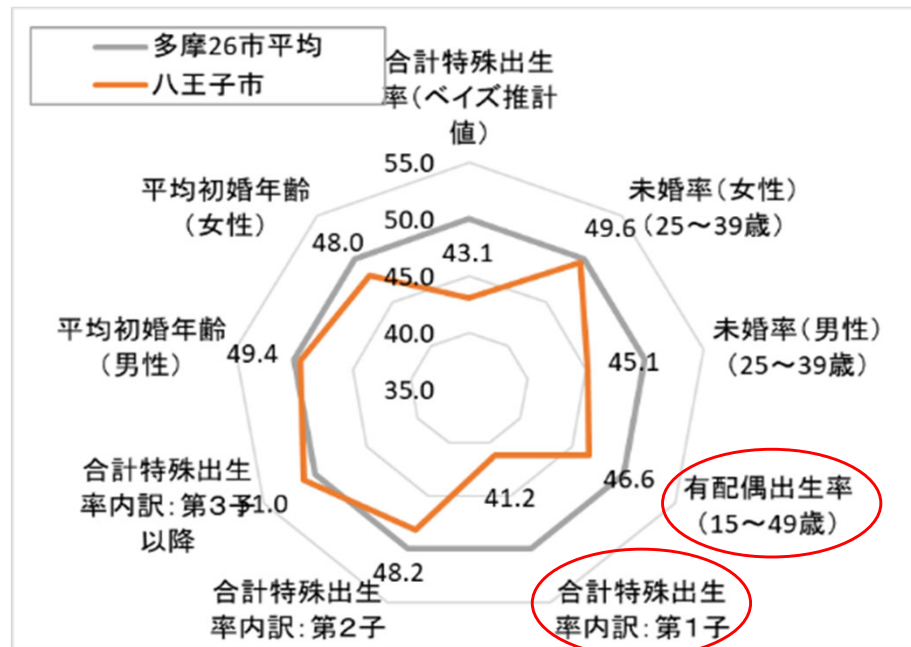
部	課
都市戦略部	都市戦略課
	広報プロモーション課
デジタル推進室	
総合経営部	経営計画課
市民活動推進部	協働推進課
	男女共同参画課
生活安全部	防犯課
福祉部	福祉政策課
子ども家庭部	子どものしあわせ課(事務局)
	子どもの教育・保育推進課
	保育幼稚園課
	子育て支援課
	青少年若者課
	子ども家庭支援センター

部	課
健康医療部	健康医療政策課
	東浅川保健福祉センター
	保健対策課
産業振興部	産業振興推進課
都市計画部	都市総務課
	土地利用計画課
	交通企画課
拠点整備部	市街地活性課
まちなみ整備部	住宅政策課
	公園課
学校教育部	教育総務課
	地域教育推進課
	教育指導課
生涯学習スポーツ部	放課後児童支援課

検討会の実施状況

回数	日程	議題
第1回検討会(部長級)	令和5年5月30日	八王子市の少子化の現状、検討の進め方・スケジュールについて等
第1回幹事会(課長級)	令和5年5月31日	八王子市の少子化の現状、検討の進め方・スケジュールについて等
第1回連絡会(主査以下)	令和5年6月30日	八王子市の少子化の現状や取り組み
第2回連絡会	令和5年8月22日	出生に関する本市の特徴把握など
第3回連絡会	令和5年10月27日	本市の地域特性の把握など
主観調査の実施	令和5年12月日	結婚・出産に関するWebアンケートを実施(令和5年12月、回答数2,787件)
第4回連絡会	令和5年12月20日	八王子市の強みや課題の整理
第5回連絡会	令和6年1月26日	対応方針(案)の検討、対応策のアイデアを議論
第2回検討会(課長級)	令和6年2月29日	地域特性や課題を踏まえた少子化対策の対応方針(案)の検討等
第2回幹事会(部長級)	令和6年2月29日	地域特性や課題を踏まえた少子化対策の対応方針(案)の検討等

出生に関する八王子市の特徴



※数字は偏差値で高いほど良い状況

有配偶出生率及び
第1子の出生率が低い。



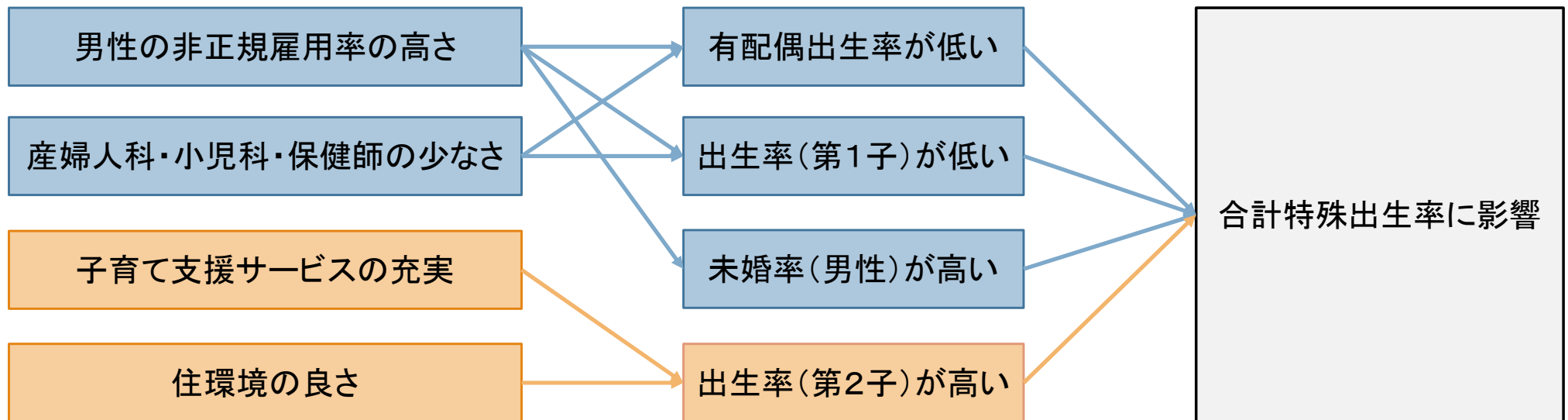
1人生まれば
2人目は生まれやすいが、
そもそも第1子が生まれにくい

検討会における出生率に関する要因分析

(例) 「男性非正規雇用率の高さ」が

「有配偶出生率が低い」ことにつながっており

「合計特殊出生率に影響」している



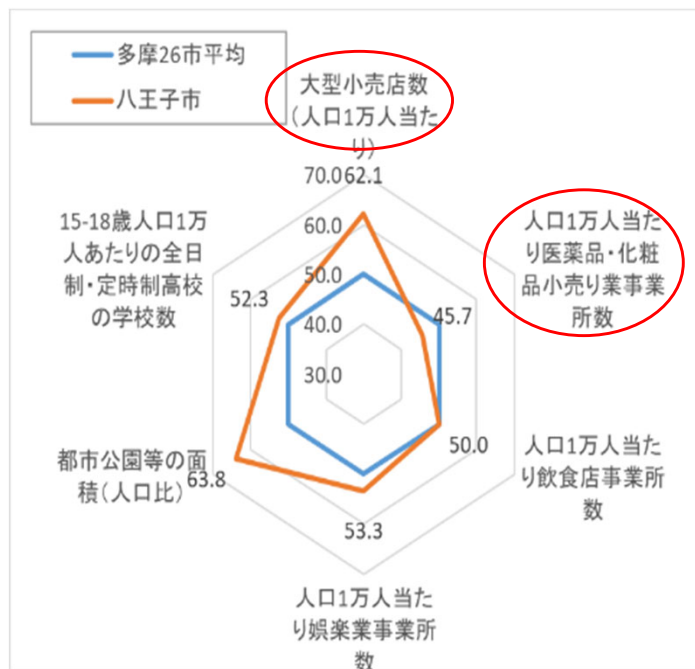
(例) 「住環境の良さ」が

「出生率(第2子)が高い」ことにつながっており

「合計特殊出生率に影響」している

凡例 ■:出生率に良い影響を与える要因 ■:出生率に悪い影響を与える要因

八王子市の地域特性の把握①



賑わい・生活環境

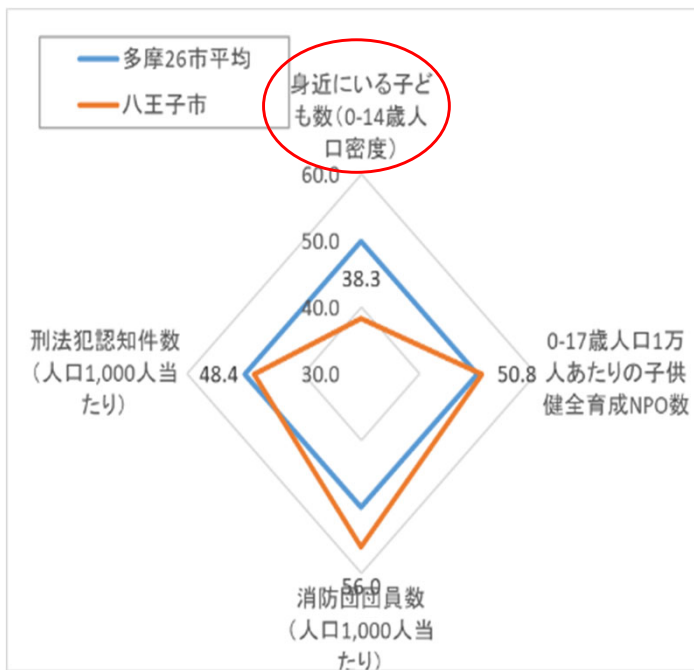
特徴
 大型小売店や都市公園が多く、医療品・化粧品の事業所数はやや少ない。



家族・住生活

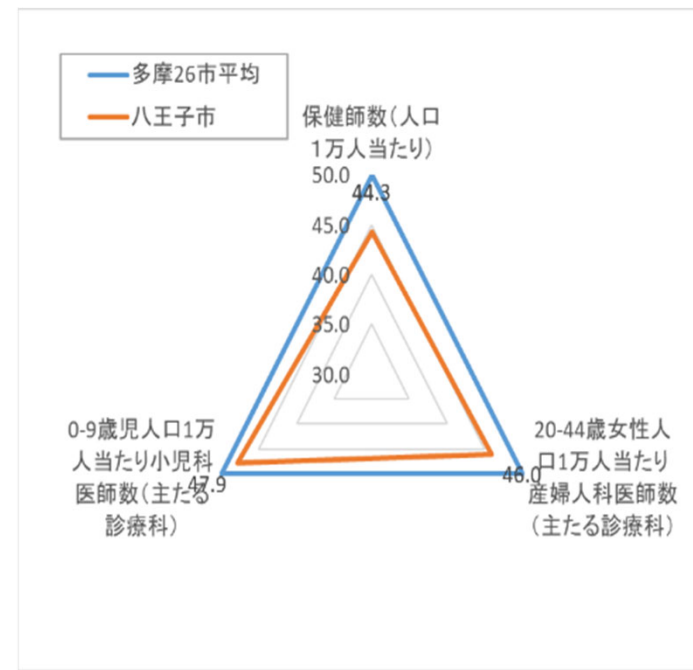
特徴
 全ての指標が平均を上回っており、持ち家が多く、面積も大きいなど住環境が良い。

八王子市の地域特性の把握②



地域・コミュニティ

特徴
身近にいる子どもの数は少ない。



医療・保健環境

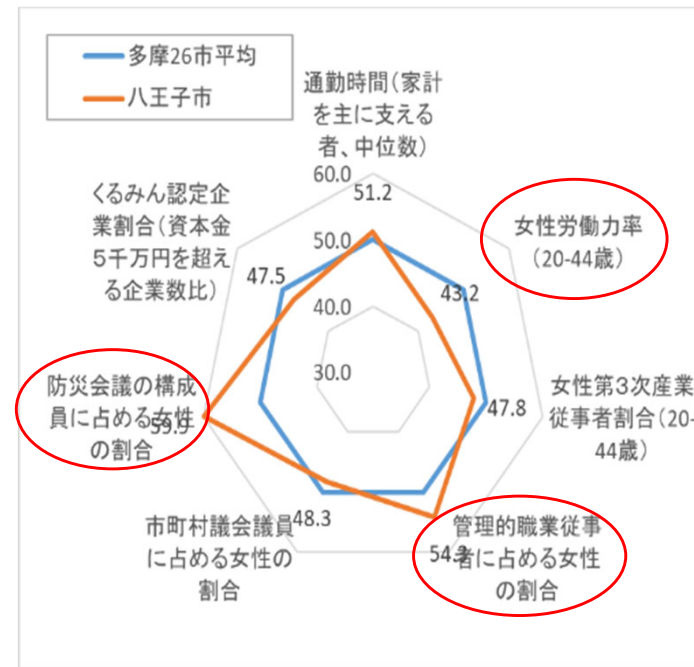
特徴
総じて産婦人科、小児科、保健師の数が少ない。

八王子市の地域特性の把握③



子育て支援サービス

特徴
 子育てひろばの数が多く、待機児童数が少ないなど、子育て支援の指標は比較的良い。



働き方・男女共同参画

特徴
 女性労働力率が低い一方で、防災会議の構成に占める女性の割合は高い。一方で、管理職に占める女性の割合は高い。

八王子市の地域特性の把握④



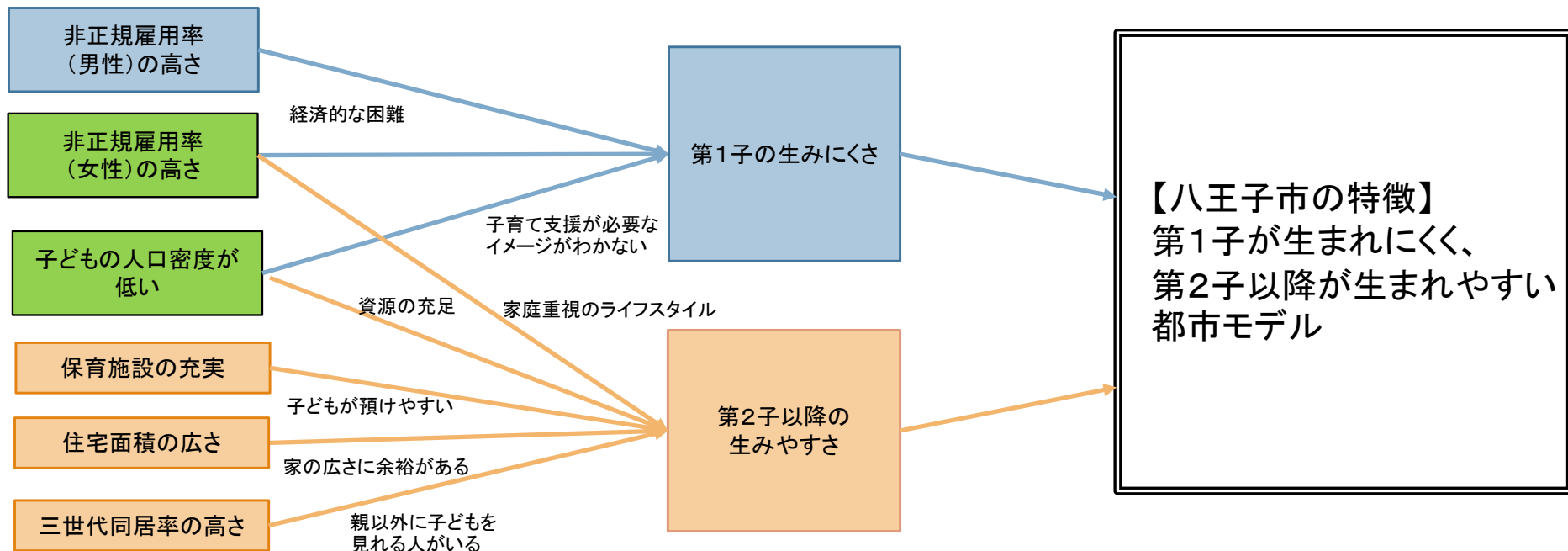
特徴

男女ともに正規雇用率が低く、完全失業率も高い。

経済・雇用

八王子市の強みや課題の整理

(例) 「非正規雇用率(男性)の高さ」が 「第1子の生みにくさ」につながっており 「八王子市の特徴」に現れている



凡例 ■:八王子市の強み ■:八王子市の課題 ■:強みとも課題とも言い切れない事項

第1子モデルと第2子以降モデル

分析を進める中で、「第1子が生まれやすい街」と「第2子以降が生まれやすい街」があることがわかった。それぞれの都市モデルの特徴を以下にまとめる。なお、八王子市は第2子以降モデルに分類できる。

	都市モデルの特徴	代表的な自治体
第1子モデル	<ul style="list-style-type: none">安定した雇用不十分な住環境子育ての担い手が不足	台東区、墨田区、北区、品川区 など
第2子以降モデル	<ul style="list-style-type: none">不安定な雇用良好な住環境子育ての担い手が多い	八王子市、青梅市、あきる野市、多摩市 など

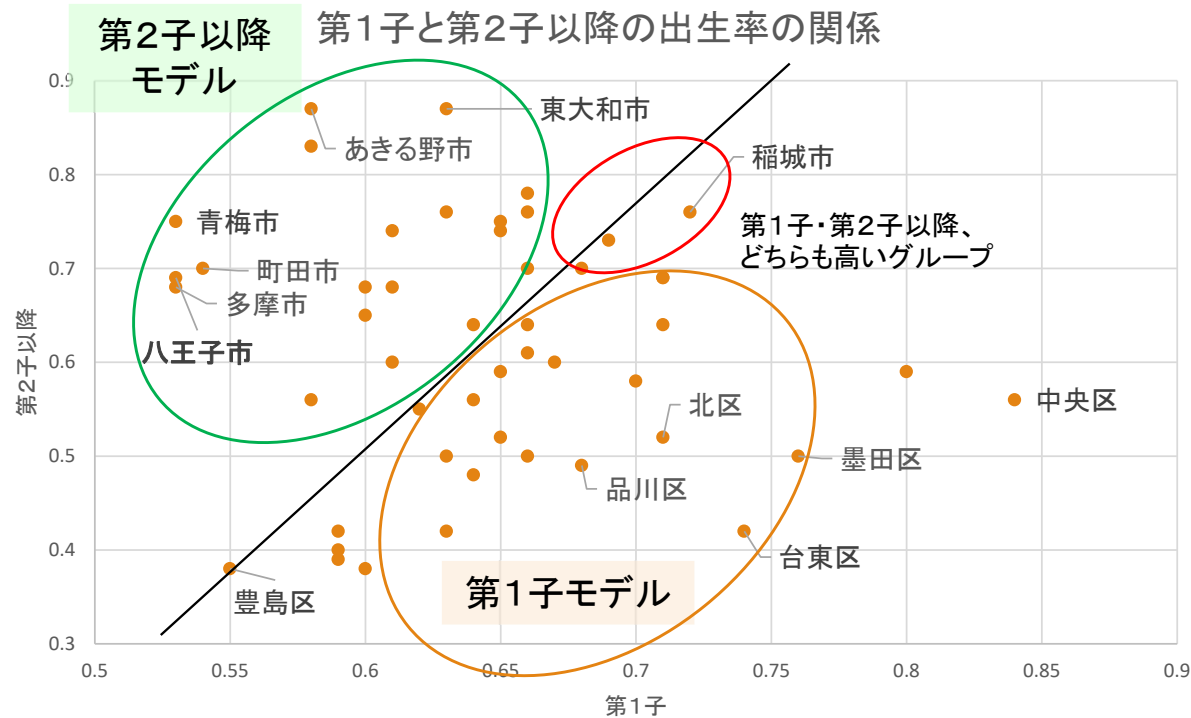


所得があるため、1人目は生まれやすいが、子育ての担い手が不足するため、物理的な負担が大きく、また、住宅面積も足りないため2人目をあきらめてしまう。



雇用が不安定なため、1人目からあきらめてしまう人も多いが、住環境や子育ての担い手の面が良好なため、1人目を持つことができる層は2人目以降を持つことができる。

都内自治体の状況



第1子と第2子以降の出生率を軸に、都内自治体の分布を図に示す。

一部例外はあるが、第1子が生まれやすい街と第2子以降が生まれやすい街に分かれる。

少子化対策の対応方針(案)

八王子市の地域特性や課題、連絡会での意見から、本市における少子化対策の対応方針(案)を以下とおりとまとめた。

方針1 若年層の雇用状況の改善

子どもを持ちたいと考える人が経済的理由であきらめることのないような社会を実現する。

方針2 子育てしやすいまちを推進

家庭・地域・行政が一体となって子育てしやすいまちを実現する。

方針3 結婚や妊娠・出産に関する支援

1人でも多くの若者の結婚や子育ての希望がかなえられるまちを実現する。

※解決すべき課題などを含めた対応方針(案)の全文は資料2参照

参考 連絡会で挙げた対応策のアイデア

対応策のアイデア(一部抜粋)

No.	取り組むべき課題	内容
1	若者の転入促進	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業の従業員を対象とした住宅補助 テレワークをしやすい環境づくり
2	正規雇用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 未婚の若者を対象に非正規から正規雇用に変換するための支援。商工会議所などとの連携により、求職者と企業のマッチング率を高める。
3	子どもを持ちたいと思っている人への支援	<ul style="list-style-type: none"> 第1子を出産した世帯への家賃支援。一時的な支援ではなく、12～24か月分の家賃相当分を継続して支援する。不動産業者との連携して実施。
4	子育て世帯の転入促進	<ul style="list-style-type: none"> 三世帯同居や近居を支援するための補助制度や情報発信を強化する。
5	出会いの場、機会の不足	<ul style="list-style-type: none"> アウトドアメーカーなどの民間事業者や東京都と連携し、高尾山などの観光地をPRしつつ、出会いのイベントを開催。八王子の魅力も伝えることで定住の効果も期待できる。

※連絡会で挙げたすべてのアイデアは資料3参照

今後の対応

●今後のスケジュール

令和6年(2024年)

4月以降

検討結果の活用



子育て支援に関する事項

令和6年度に改定する子ども・若者育成支援計画に反映

全庁的な対応が必要な事項

企画部門と調整し、活用方法等について検討